

9月号

SEPTEMBER 2026

MJIA

M A G A Z I N E



明治神宮を参拝する第30期日本インド学生会議のメンバー

写真提供：日本インド学生会議

公益財団法人日印協会

住 所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階

電話 番 号： 03-6272-4408

<https://www.japan-india.com>



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、日印間の政治・経済・文化交流に貢献しています。

目次

ゴアで知った、もう一つのインド —天正遣欧少年使節が結ぶ日本とインド— 三菱商事 顧問 / 神田外語大学 前学長 宮内 孝久	4
シッキム州 紹介	8
第5回/第6回「税務・法務セミナー」開催報告	10
書籍紹介	11
日印協会からのご案内	12
編集後記	14
法人会員一覧	15

インドの良き食文化をお伝えする事が私たちの使命です。（全国配送承ります）



シタールのインドカレー
**変わらぬ人気のカレー
をそのままのお味で、
ご家庭へ。**

社長の増田泰親は学生時代、当時九段にあった印度料理アジャントでアルバイトとして入店し、大学卒業後はコックとして修業を積み、1981年に千葉市で印度料理シタールを創業いたしました。



アルフォンソマンゴードリンク
**アルフォンソマンゴー
といえばシタール。自信
ある逸品です。**

社長の増田泰親が情熱を傾けるアルフォンソマンゴーから作る無添加ドリンクです。毎年インドの農園へ行き品質を確認して原料となるマンゴーを輸入しています。



野生黒蜂蜜 ハンティングハー
**インド メルガートの
自然保護区でハニーハ
ンターによって採集さ
れる貴重な蜂蜜です。**



おうちでつくれるチャイセット
**インドのバザールで飲
む味そのまま！おうち
で簡単チャイキット。
マサラとレシピ付。**



・ 味と香りの調へを奏でる since1981

印度料理シタール

千葉県千葉市花見川区検見川町 1-106-16
mail : info@sitar.co.jp

■ 上記以外の商品も多数取り揃えております。

■ 個人様、企業様向け季節のギフトなどのコーディネートもご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは TEL 0120-166-358 <http://www.e-sitar.jp/> へ

ゴアで知った、もう一つのインド —天正遣欧少年使節が結ぶ日本とインド—

三菱商事 顧問 / 神田外語大学 前学長
宮内 孝久

1. 『図説 天正遣欧少年使節』が私をゴアへ導いた

2026年、私は初めてゴアを訪れた。アラビア海に面し、世界遺産の教会群とポルトガル風の街並みで知られる。私は半世紀前、新婚旅行でインドとネパールを訪れて以来、仕事でも休暇でも、パキスタンやスリランカを含むインド文化圏を歩いてきた。しかし、ゴアには一度も訪れたことがなかった。

そのゴアへ私を導いたのは、一冊の本である。

2025年、私は『図説 天正遣欧少年使節』（高祖敏明神父監修、伊藤玄二郎氏編集、山口道孝神父主執筆）の出版支援に携わった。本書は、伊東マンショ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルチノの四人が1582年に長崎を出港し、喜望峰を経てリスボンへ渡り、さらにスペイン、イタリアを巡ってローマで二人の教皇に謁見し、約8年をかけて帰国した旅を、限られた史料から丹念に再構成した労作である。同時に、ゆかりの地をたどる美しい写真集でもある。発刊に際しては、のちに逝去されたフランシスコ教皇から直筆の激励文が寄せられ、高祖神父と伊藤氏は、教皇逝去の半年前に見本本を直接献呈する機会にも恵まれた。



フランシスコ教皇へ贈呈する高祖敏明神父、伊藤玄二郎 かまくら春秋社代表取締役



使節団の行程

私は本書の出版に関わるうちに、少年たちの旅を単なる「ローマ巡礼」として理解するだけでは足りないと思うようになった。彼らは、大航海時代の海洋秩序が形成されつつある現場を、自らの目で見たのである。

そして、その旅の重要な舞台の一つがゴアであった。

2. ゴアで四少年を想う

少年使節は、往路でコーチンとゴアに約8か月、帰路ではゴアに約11か月滞在した。帰路の長期滞在中、1587年に豊臣秀吉が発した伴天連追放令の影響を見極める目的もあったと考えられる。その滞在中、象徴的な出来事があった。1587年6月4日、原マルチノがゴアの聖パウロ学院で、使節を代表してラテン語の演説を行ったのである。

演説はギリシャ神話の三美神に始まり、旅の恩寵を神の導きとして語り、イエズス会への感謝を述べる。ローマでの教皇謁見をシバの女王の旅になぞらえ、さらに世界宣教を担うイエズス会を称え、使節派遣の立案者ヴァリニャーノ神父をアレクサンドロス大王になぞらえて締めくくる。十代の少年が異国の地でラテン語を用い、ギリシャ神話と聖書を自在に引用しながら、自らの旅を世界史の中に位置づけている。その知的水準の高さには驚かされる。

この演説は、少年たちに同行し、活版印刷技術を習得した日本人コンスタンチノ・ドラードによって翌年ゴアで印刷された。日本人が海外で語り、日本人が海外で印刷した。これは、日本人が西洋文明を一方的に眺めた出来事ではない。自らの言葉を世界へ送り出し始めた瞬間でもあった。『図説 天正遣欧少年使節』は、少年たちの旅行記にとどまらない。日本人が初めて本格的に西洋文明と向き合い、驚き、学び、語り返そうとした歴史を描いているのである。

3. 「東方の首都」ゴアとイエズス会

日本人がインドとの宗教的な結び付きを考えると、まず思い浮かべるのは釈迦であり、仏教であろう。しかし、16世紀の日本とインドの関係を理解するには、もう一つの視点、すなわちキリスト教と海洋交易の視点が欠かせない。ポルトガル帝国にとって、ゴアは単なる植民地ではなかった。「東方の首都」と呼ばれ、アフリカ、中東、インド、東南アジア、そして日本へと広がる巨大な海洋ネットワークの中核であった。行政、外交、交易、教育、出版、布教がここに集約されていた。

少年使節は、世界の周縁に立っていたのではない。海洋世界の重要な中枢に身を置き、当時の世界がどのように動いているかを間近に見た日本人だったのである。

ところで、商社マンであった私の目には、イエズス会が一種の「総合商社」に見える。彼らは世界各地へ人材を派遣し、現地語を学ばせ、教育機関を設け、権力者との関係を築き、詳細な報告を本部へ送り続けた。教育、出版、医療、外交、人材育成、情報収集、資金調達、輸送。その活動は宗教だけに収まらない。商社流に言えば、イエズス会士は海外駐在員であり、営業担当者であり、ときには調査部員でもあった。ゴアは地域統括拠点である。宣教師でありながら交易に積極的に関わった。それでも、世界各地の情報を集め、人を育て、組織的に活動した点には、どこか商社に通じるものがある。

しかし、宗教改革後にオランダやイングランドが台頭すると、金融や海運、軍事力を一体化した近代的な通商組織が優位に立ち、ポルトガルとイエズス会を中心とする仕組みは、次第に海洋覇権を失っていった。ゴアは、古い秩序が最も華やかに輝いた場所であると同時に、新しい秩序がその背後から近づいていた場所でもあった。

4. ゴアが教えてくれた、もう一つのインド

ボム・ジェズス聖堂には、フランシスコ・ザビエルの遺骸が安置されている。ザビエルは、日本にキリスト教を伝えた象徴的な存在である。しかし、その背後には、植民地支配や奴隷貿易という歴史の影もあった。使節の見聞をもとに編まれた『天正遣欧使節記』には、海外へ売られた日本人奴隷に対する憤りが記されている。秀吉の伴天連追放令の背景の一つとしても、日本人の人身売買に対する反発が指摘されている。ザビエルの遺骸の前に立って私が感じたのは、単純な賞賛でも批判でもなかった。信仰、交易、布教、支配、教育、人身売買。それらが複雑に絡み合っていた歴史そのものである。



ボム・ジェズス聖堂

また、少なくとも私が訪ねた範囲では、ゴアに長く滞在した四少年を顕彰するモニュメントを見つけることはできなかった。四人がここで学び、語り、帰国の時を待ったことは、日本人にもインド人にも、まだ十分に知られていない。

今回の旅でもう一つ改めて学んだのは、インドにおけるキリスト教の歴史の深さである。十二使徒トマスが南インドで布教し、殉教したという伝承は広く知られている。ケーララ地方には、ポルトガル人が到来する以前からキリスト教共同体が存在していた。現在もインドには約三千万人のキリスト教徒が暮らしている。上智学院理事長のアガスティン・サリ神父もインド出身である。

つまり、ポルトガル人は「キリスト教のない土地」にキリスト教を運んだのではない。すでに多くの宗教と文明が行き交っていたインド洋世界の中で、古くから存在するキリスト教共同体とも出会ったのである。ゴアで私は、日本とインドを結ぶ歴史には、仏教とは異なるもう一本の道があったことを知った。

5. 遠藤周作とマザー・テレサ

ゴアで文明の出会いについて考えているうちに、私は若いころに読んだ遠藤周作の小説『深い河』を読み返した。



遠藤は、ヒンドゥー教徒が沐浴し、死者の遺灰が流され、仏教徒が経を唱え、日本人のキリスト教徒である大津が名もなき死者を背負って歩くガンジス河を描いた。そこでは、生と死、聖と俗、清浄と汚濁が、明確な境界線を引かれることなく同じ流れの中に存在している。

ガンジス河は、流れ込んでくるものに宗教や国籍を尋ねない。違いを消して一つの色に染めるのではなく、異なるものを異なるまま抱え、流れを止めない。遠藤は、西洋から受け継いだキリスト教を、そのまま日本へ移植するのではなく、日本人の心に腑に落ちる信仰として捉え直そうとしたのではないか。ガンジス河は、そのための思索の場であったように思う。

そこから私が連想したのが、インドで活動したマザー・テレサである。彼女は、改宗者の数を宣教の目に見える成果とは考えず、少なくとも改宗を奉仕の条件とはしなかった。ヒンドゥー教徒にはヒンドゥー教徒として、イスラム教徒にはイスラム教徒として、尊厳ある最期を迎えられるよう配慮したとされる。もちろん、彼女が宣教を放棄したわけではない。目の前の貧しい人の中にキリストを見いだし、奉仕という行為を通じて神の愛を示そうとしたのである。

ザビエルが、教えを伝えることから神の愛へ導こうとしたとすれば、マザー・テレサは、まず愛を実行することから神へ導こうとした。ザビエルは言葉を入口とし、マザー・テレサは行為を入口とした。二人の違いは信仰の深さではなく、宣教の入口にあった。そして、異なる信仰を持つ人々が共に暮らすインドという土地は、宗教が他者と出会うとき、何が本質で、何が方法なのかを問いつける場所でもあったのだろう。

6. ゴアから考える日本とインドの未来

—結びにかえて—

ゴア訪問後、私はニューデリーで在インド日本国大使の小野啓一氏を訪ね、『図説 天正遣欧少年使節』を贈呈した。インドに暮らす日本人や、これからインドを訪れる人々にも、仏教だけではない日印交流の歴史を知ってほしいと思ったからである。また、ゴアに四少年を顕彰する記念碑を設

ける構想についても意見を交わした。

そのとき私の頭に浮かんだのが、安倍晋三元総理が提唱した「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」である。FOIPには、安全保障や経済秩序をめぐる現実的な側面がある。それは当然である。しかし、FOIPをそれだけに閉じる必要はない。文明史の視点を加えることによって、異なる文明が自由に出会い、学び合うための構想として、さらに厚みを持たせることができるのではないか。

日本は、神道、仏教、儒教、さらに近代西洋思想を受け入れながら、独自の文化を築いてきた。インドは、ヒンドゥー教、仏教、イスラム教、キリスト教など、多様な宗教と文化を抱えながら今日に至っている。もちろん、両国の歴史に宗教対立や激しい抗争がなかったわけではない。しかし、自らの文明を保ちながら異質なものを取り込み、新しい文化を生み出してきたという点には共通性がある。私は、FOIPが、法の支配や自由、開放性を守るための現実的な枠組みであると同時に、異なる文明が互いを尊重し、未来を語り合うための「知的な港」へと育つことを願っている。

16世紀のゴアは、人や物だけでなく、宗教、思想、言語、技術が行き交う港であった。四少年はそこで世界と出会い、自らの言葉で世界に語りかけた。

私は半世紀以上にわたりインド文化圏を訪れ、この地域に特別な親しみを抱いてきた。しかし、『図説 天正遣欧少年使節』の出版に携わらなければ、ゴアを訪れることはなかっただろう。そしてゴアを訪れなければ、日本とインドを結ぶ、仏教とは異なる歴史の道に気づくこともなかった。

ガンジス河は、流れ込むものに宗教も国籍も尋ねない。聖なるものも俗なるものも、生も死も、そのすべてを抱え込みながら大河として流れ続ける。論理を突き詰めれば、相反する価値観は容易には両立しない。しかし現実の社会は、曖昧さや矛盾を抱えながら、それでも動いている。異なるものを無理に一つにするのではなく、異なるまま受け止め、自らの軸を失わずに学び合う。それは、日本やインドをはじめとするアジアが、長い歳月の中で育んできた文明の知恵の一つなのかもしれない。



小野啓一駐インド日本国大使へ贈呈する筆者



tu

Es una alegría para mí ver que el recuerdo de los primeros japoneses que visitaron al Papa en 1585 todavía sigue presente. La publicación será, sin duda, una forma de unir la gran cantidad de documentación que nos queda de la época y también una forma de mostrar que el diálogo entre culturas y religiones fue y será siempre posible.

Como el Papa Gregorio XIII recibió a los Cuatro Jóvenes Japoneses, deseo que, a través de este libro podamos seguir encontrarnos y entendernos mutuamente.

Vaticano, 24 de mayo de 2023

Francisco

教皇フランシスコの直筆のメッセージ

文明とは、自らと異なる文明を排除することではない。自らの軸を保ちながら、異なる文明との出会いによって自らを豊かにしていく営みである。四百四十余年前、ゴアは異なる文明が出会う「知的な港」であった。そして21世紀の日本とインドもまた、異なる文明を結び、互いに学び合うための港を築くことができるのではないだろうか。

この拙文をきっかけに、いつの日かゴアを訪れる方がおられると嬉しい。アラビア海の彼方に広がるインド洋を眺めながら、素敵な出会いを感じていただければ、なお嬉しい。四百四十余年前、四人の少年はゴアで世界と出会った。その旅は、時を越えて、今も私たちを新しい世界との出会いへと誘っている。

シッキム州

概要

- * 州都：ガントク
- * 面積：7, 0 9 5 km²（県 (District)：6）
- * 人口：6 1 0, 5 7 7 人（2011年国勢調査）
（2023年推定：約70万人）
- * 識字率：82.2%（2011年）
- * 主要言語：ネパール語(62.6%)、シッキム語(6.9%)、
レプチャ語（6.3%）、ヒンディー語(5.6%)、
シェルパ語（2.2%）、ベンガル語(1.1%)
- * 宗教別人口比率：ヒンドゥー教（57.8%）、仏教（27.4%）、
キリスト教（9.9%）、イスラム教（1.6%）、シク教（0.3%）
（言語、宗教人口比率は2011年国勢調査に基づく）



政治

（1）州政府

- * 州知事：オーム・プラカーシュ・マトゥール（Om Prakash Mathura）（2024年7月～）
- * 州首相：プレム・シン・タマン（Prem Singh Tamang）（2019年5月～）

（2）州議会：一院制（定員32、2029年5月任期満了）

- * 与党：シッキム革命戦線（SRM）31
- * 野党：シッキム民主戦線（SDF）1（注：2024年選挙結果発表時）

（3）概況

1993年にパワン・クマール・チャムリンが創設したシッキム民主戦線（SDF）が、1994年州議会選挙で勝利して以来、2019年までの25年間に亘り、チャムリンSDF党首を州首相とする政権を維持した。2019年州議会選挙では、BJPに接近したシッキム革命戦線（SKM）が勝利（17議席獲得）し、プレム・シン・タマン党首が州首相に就任。2024年州議会選挙では、SKMが31議席を獲得する大勝を収め、タマン州首相率いるSKM政権（2期目）の基盤が強まった。なお、2014年から2019年はSDFがNDA協力政党であったが、2019年以来SKMがNDA協力政党となっており、2019年及び2024年連邦下院選挙においてシッキム州枠1議席を同党が獲得している。

経済・産業

(1) 主要指標 (IBEF資料に基づく)

* 名目州内総生産 (G S D P) : 約 5, 7 0 0 億ルピー (2026年度推定)

* 一人当たり名目G S D P : 約 8 0 万ルピー

* 実質G S D P成長率 (2019-2026年平均) : 1 0 . 4 6 %

* 州内総付加価値 (G S V A) 構成比 (2024年度) :

第1次産業 7 . 0 %、第2次産業 6 3 . 1 %、第3次産業 3 0 . 0 %

(2) 概況

労働人口の45.8%が農業に従事(2022年度)しており、州内農産物は100%オーガニック生産。ブラック・カルダモンの生産量はインド全国生産の約8割を占める。他州に比べ、州内総生産に占める工業分野の比率が6割強と極めて高く、サービス分野の比率が3割弱と低い。特に、多様で豊富な薬用植物に恵まれていることもあり、近年、製薬業の発展が目覚ましく、同州からの輸出の6割以上を医薬品及び医薬関連品が占める。また、同州を訪れる観光客の増加(2025年の州外からの旅行者数は163万人強、うち外国人は6万人強)により、観光業も伸びている。

進出日本企業拠点(2024年10月) : 2 (金融・保険関係)

歴史

17世紀、元来モンゴロイド系のレプチャ族が居住していた地域にチベット系のプティヤ族が流入し、プンツォ・ナムギェルを仏法王(チョギャル)とするシッキム王国(ナムギェル朝)が建国された。19世紀末、シッキム王国は、清朝・イギリス帝国間のシッキム条約(1890年)によりイギリスの保護領とされ、1947年にインドが独立すると、1950年にインド・シッキム条約が締結され、インドの保護国となった。1973年にはシッキム立法議会が創設され、1974年の議員選挙でシッキム会議派が勝利し、同党総裁のレンドゥップ・ドルジが首相に就任。1975年4月、バルデン・トンドゥブ国王の退位を求めるデモ隊と国王親衛隊との衝突を契機に、インド軍が介入。同年5月にシッキム立法議会が王政廃止とインドへの編入を議決した一方、インド国会はシッキムをインド第22番目の州とする憲法改正案を可決、5月16日にシッキム王国はシッキム州としてインドに編入された。

その他

州域の3方をネパール(西)、中国・チベット(北)、ブータン(西)に囲まれ、州面積の3分の1以上をユネスコ世界自然遺産に登録されているカンチェンジュンガ国立公園が占め、インド最高峰(世界第3位)のカンチェンジュンガ峰(標高8,586m)を擁する。稀少な動植物が多く、500種以上の蘭や数十種に及ぶサクラソウやシャクナゲなどが見られ、トレッキング旅行者などの目を楽しませる。

第5回 / 第6回「税務・法務セミナー」開催報告

（第5回） 2026年7月21日（火）に日本記者クラブにおいて、「インド投資・JV構築：急成長するインド・エコシステムへの投資実務とJV解消のポイント」をテーマに第5回税務・法務セミナーを開催いたしました。

当日は、TMI総合法律事務所インドプラクティスグループに所属する外国法事務弁護士（インド法）のヴィーラスレシュクマル・ヴィーラッパン氏を講師にお迎えしました。ヴィーラッパン氏は1999年にインドで弁護士登録され、日本の大手メーカーでの勤務経験もお持ちの、インド法について日本語で相談できる有数のインド弁護士のお一人です。

セミナーでは、まずインドの政治・経済動向や日系企業がインド進出時に押さえておくべき出資形態、外資規制、会社法上のガバナンス等の実務上の留意点について解説いただきました。続いて、急速な拡大を続けるインドのスタートアップ・エコシステムの最新動向や事業会社によるスタートアップ投資の実務、さらには合弁事業からの撤退（エグジット）を見据えた契約設計や、実際のトラブル事例を踏まえた紛争解決の勘所に至るまで、幅広いテーマについて具体的かつ実践的な解説をいただきました。

長年にわたり現地最前線でインドビジネスの実務に携わってこられたヴィーラッパン氏ならではの、豊富な経験に裏打ちされた的確なアドバイスは、参加した会員の皆様にとって大変示唆に富む有意義な内容となりました。

ご登壇いただいたヴィーラッパン氏、ならびにご出席いただいた会員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

（第6回） 2026年8月3日（月）に日本記者クラブにおいて、「インドの最新法規制トレンド：デジタル個人情報保護法・上場会社M&A等のポイント」をテーマに第6回税務・法務セミナーを開催いたしました。

当日は、森・濱田松本法律事務所より、インドチームを統括し豊富な現地ネットワークを有する小山洋平弁護士、欧米・新興国を含む国境を越えたM&Aや国際的なコンプライアンス・危機管理を専門とする御代田有恒弁護士、インドのトップファームでの執務経験を活かしインドを中心とする東南アジアの国際取引を専門とする臼井慶宜弁護士（法人カウンセラー）の3名を講師にお迎えしました。

セミナーでは、①2025年11月に施行されたデジタル個人情報保護法における同意取得・通知義務、域外データ移転規制、違反時の高額な制裁金等のポイント、②同月に施行された労働新4法（労働安全・健康・労働環境法、労使関係法、賃金法、社会保障法）における労働時間の上限や女性労働者の就労規制、解雇規制等の改正点、③強制的公開買付義務や第三者割当増資の手続、非上場化のハードルをはじめとする上場会社M&Aの実務上の留意点について、具体的な設例を交えながら分かりやすく解説いただきました。

いずれも日本企業のインドビジネスに直結する最新の法規制動向であり、参加した会員の皆様にとって大変示唆に富む有意義な内容となりました。ご登壇いただいた3名の弁護士、ならびにご出席いただいた会員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

今後も皆様のビジネスの一助となるよう、経済界とも緊密に連携しながら、実務的でタイムリーなセミナーを継続して企画してまいります。

< 予定しておりますテーマと開催時期 >

事務所	講演テーマ案	開催時期
Baker Tilly ASA India	インドにおけるクロスボーダー取引の税務及び各種規制対応	10月8日（木）15:00～17:00

＜書籍紹介＞



超スケール経済インド一次世代超大国のビジネス地図

著者：難波昇平・椿進

出版年月日：2026年4月15日

定価：¥2,200（税込み）

発行：東洋経済新報社

本書は、AAIC（Asia Africa Investment and Consulting）でインド・アジア新興国ビジネスの最前線に立つ難波昇平氏と椿進氏による共著である。両氏は現地での豊富な事業経験と最新データを武器に、日本人が抱きがちな「貧困・渋滞・カレー」といった旧来のインド像を真っ向から覆す。

2023年に中国を抜き人口世界一となったインド（14億6,400万人）は、平均年齢28歳という圧倒的な若さを誇る。本書はこの人口動態を起点に、全10章にわたってインドの「規模」を多角的に描き出す。1,000万人都市が6つも存在するビジネススケール、手取り年収3,000万円超の富裕層がすでに100万世帯と日本を上回っている事実、「東大」水準の超難関大学IITが23校もある人材輩出力、そして世界3位のユニコーン大国としてのスタートアップ熱——いずれも数字が雄弁に「新しいインド」を物語る。

特に印象深いのは、財閥御曹司の結婚式に大谷翔平選手の年俸9年分（950億円）が投じられたという象徴的なエピソードや、デリバリー・食領域の急成長、日本企業の進出事例、そしてM&Aによる参入可能性を論じた終盤の章である。マクロな統計とミクロな現場感覚を往還しながら、読者を「データで見るインド」と「肌感覚で知るインド」の両面から立体的に理解させてくれる構成は、コンサルタントとしての両氏の強みが存分に発揮されている。

日印協会の会員にとって本書は、対印ビジネスの現状を俯瞰する入門書であると同時に、既存のインド観のアップデートを迫る一冊でもある。インドとの経済的接点を模索する企業関係者、投資家、そして日印の架け橋を志す全ての方に一読をお勧めしたい。

インドの「おいしい」「安全」を
日本へお届けしつづけ、24年。

有限会社マカイバリジャパン（マカイバリ茶園アジア・日本総代理店）
東京都中野区沼袋 4-38-2 Tel: 03-5942-8210 Fax: 03-5942-8211 makaibari_japan
tea@makaibari.co.jp www.makaibari.co.jp

ISHII TRADING PRIVATE LIMITED（インド会社） india_happyhunter
E52 Hauz Khas Main Market, New Delhi-110016, INDIA info@ishii.co.in

元ネルー大学教授ブレム・モトワニ氏がメールマガジンにてインドからお届けする「インドの今」。
ご登録は、マカイバリジャパンのホームページから。 www.makaibari.co.jp

ガネーシャ通信

日印協会からのご案内

会員限定「天竺茶話会」

講師の方を招いて、あらかじめ決めたテーマで参加者の方々と話し合うお茶会です。

インド通の方、もっともっとインドについて知りたい方、インドについて詳しくになりたい方、皆様のご参加をお待ちしております。

どうぞお気軽にご参加ください。

9月開催

- 《テーマ》 「隣国バングラデシュ：大国インドの試金石」
- 《講師》 村山真弓氏 （岐阜女子大学南アジア研究センター特別客員教授）
- 《日時》 2026年 9月29日（火） 14:00～15:30（受付 13時45分）
- 《会場》 公益財団法人日印協会 会議室
東京都千代田区麴町1－6 麴町保坂ビル 6階
- 《定員》 約18人※定員数になり次第、締切らせて頂きます。
- 《参加費》 お茶菓子とお茶代 1,000円(当日現金)
- 《お申し込み》 メール「partner@japan-india.com」
または、電話 TEL: 03-6272-4408

10月開催

- 《テーマ》 「Digital Indiaを通じた課題解決」
- 《講師》 二階堂 有子氏 （武蔵大学 経済学部経済学科 教授）
- 《日時》 10月27日（火） 14:00～15:30 （受付開始13時45分）
- 《会場》 公益財団法人日印協会 会議室
東京都千代田区麴町1－6 麴町保坂ビル 6階
- 《定員》 約18人※定員数になり次第、締切らせて頂きます。
- 《参加費》 お茶菓子とお茶代 1,000円(当日現金)
- 《お申し込み》 メール「partner@japan-india.com」
または、電話 TEL: 03-6272-4408

日印協会からのご案内

～会員交流会～ （予告）

《日 時》 2026年11月27日(金) 18:00～

《会 場》 新宿中村屋 レストラン グランナ

Venue : Restaurant Granna, Nakamuraya

東京都新宿区新宿三丁目26番13号 新宿中村屋ビル 8階

公共交通機関:[JR線をご利用の方] 新宿駅東口から徒歩2分

[東京メトロ丸ノ内線をご利用の方] 新宿駅A6出入口直結

会費、申し込み方法等は次月以降にご案内させていただきます。



昨年の開催時の様子

公益財団法人日印協会

住 所 : 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階

電 話 番 号 : 03-6272-4408 ファ ッ ク ス : 03-6272-4135

メ ー ル : partner@japan-india.com

ホームページ : <https://www.japan-india.com>

MJIA(Monthly Japan-India Association)

2026年9月号（2026年9月18日発行）

発行人：齋木 昭隆 編集人：三谷 礼子



編集後記 ～紅茶のお話⑦Afternoon Tea on the 'Orient Express'～

MJIA 9月号はいかがでしたでしょうか。今号では宮内孝久氏（三菱商事株式会社顧問）より、ゴアと天正遣欧少年使節の歴史的足跡を辿る寄稿をいただきました。キリスト教の布教の拠点であったゴアを訪れた少年たちの足跡を通じ、日印の知られざる歴史と交流を、独自のビジネス視点を交えて分かりやすく紐解いてくださいました。

さて、今回の紅茶のお話は「Afternoon Tea on the 'Orient Express」です。

こちらの写真は、かつて運行されていたオリエント急行のサロンカー。1929年にコート・ダジュール特急のサロンカーとしてデビューし、後にオリエント急行の路線で運行され2001年まで現役で活躍した後、箱根の美術館に移設されました。



オリエント急行車両写真

車内では、ルネ・ラリックの美しい室内装飾に囲まれながら紅茶を愉しむことができます。一歩足を踏み入ると、そこはまるでタイムスリップをしたような空間！ 華やかな時代のヨーロッパを旅しているような、贅沢で特別なティータイムを過ごすことができました。



車内の紅茶の写真

かつてパリからイスタンブールまでを結んだオリエント急行。インドと一見関係がなさそうですが、実はご縁があるのです。当会役員のN氏、S氏に箱根のオリエント急行の話をしたところ、「ニューデリーにはオリエント急行の中でお食事をする事が出来るレストランがあるよ（そしてとても美味しい）」との事。こちらがそのレストラン。その名も「Orient Express」。本物の車両ではなく、オリエント急行の食堂車を再現したフレンチレストランのようです。



デリーのオリエント急行（JTBサイトより）

箱根とニューデリー。遠く離れた二つの「オリエント」に、古き良き旅の浪漫をかきたてる、特別な空間がありました。

朝夕は幾分涼しくなり、秋の気配を感じる季節となりました。夏の疲れが出やすい時期でもありますので、皆様どうぞ温かい紅茶で一息つきながら、お身体を大切にお過ごしください。
（日印協会 三谷礼子）

<法人会員一覧>

複数口法人会員 30社

株式会社IHI
株式会社エイチシーエル・ジャパン
国際縄文学協会
国際スポーツ振興協会
株式会社小松製作所
ジャパンペガサスツアー株式会社
株式会社シンリョー
スズキ株式会社

法人会員 201社

認定特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
株式会社IPパートナーズ
株式会社 朝日新聞社
株式会社アシックス
有限責任あずさ監査法人
アセアン・ワン株式会社
アーチ株式会社
ARMS株式会社
ALSOK株式会社
A'ALDA PTE. LTD.
株式会社アルファ.JP
株式会社 安藤・間
医療法人社団 育健会
いすゞ自動車株式会社
株式会社伊藤園
伊藤忠商事株式会社
株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ
株式会社INPEX
インド日本商工会
株式会社ヴィジョンオブヨガ
株式会社ウィングスグローバルサービス・ジャパン
ウェブスタッフ株式会社
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所
エア・インディア リミテッド
エア・ウォーター株式会社
SMC株式会社
SBSホールディングス株式会社
Edelman Japan株式会社
株式会社エトワール海渡
NRM JAPAN 株式会社
株式会社NGC
株式会社NTTドコモ
株式会社FTO
エンビジョンエンタプライズソリューションジャパン株式会社
冲印友好協会
株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル
株式会社オリエンタルランド
オーウィル株式会社
株式会社オープンハウスグループ
加賀電子株式会社
鹿島建設株式会社
カナデビア株式会社
カナフレックスコーポレーション株式会社
亀田製菓株式会社
株式会社川内美登子・植物代替療法研究所
関西学院大学
キャノン株式会社
クエスト・グローバル・ジャパン株式会社
株式会社クボタ
株式会社熊谷組
蔵町工業株式会社
黒崎播磨株式会社
株式会社グローバルヒューマニー・テック
ケイエフ・トレーディング株式会社
株式会社 啓文社
株式会社 ケー・アンド・エル
鴻池運輸株式会社
株式会社交洋
株式会社講談社
興和株式会社
株式会社国際協力銀行
公益財団法人 国際文化会館
小島国際法律事務所
ジェンパクト株式会社
酒井重工業株式会社

住友商事株式会社
住友電気工業株式会社
世界開発協力機構
世界芸術文化振興協会
全日本空輸株式会社
ダイキン工業株式会社
第一三共株式会社
有限会社ダイメックス
株式会社TTJ・たちばな出版
株式会社デンソー
一般財団法人東京芸術財団

株式会社 サカタのタネ
公益財団法人笹川平和財団
株式会社 サンウェル
山九株式会社
サントリーホールディングス株式会社
JFEスチール株式会社
JGREEN POWER PRIVATE LIMITED
塩浜商事株式会社
株式会社時事通信社
株式会社システムコンサルタント
株式会社静岡ガス
株式会社静岡銀行
有限会社シタァール
品川イーストクリニック
有限会社ジューエストラベル
株式会社商工組合中央金庫
株式会社商船三井
株式会社新日本科学
鈴与株式会社
株式会社住友倉庫
住友重機械工業株式会社
住友不動産株式会社
生活協同組合コープさっぽろ
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
積水ハウス株式会社
セコム医療システム株式会社
セイノーホールディングス株式会社
ZEUS LAW
双日株式会社
損害保険ジャパン株式会社
第一生命ホールディングス株式会社
大成建設株式会社
株式会社大創産業
大日本印刷株式会社
株式会社タマイインベストメントエデュケーションズ株式会社
地球人.JP株式会社
千代田化工建設株式会社
ティー・アイ・シー協同組合
株式会社ディー・エヌ・エー
TMI総合法律事務所
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド
学校法人都築育英学園
株式会社 帝国ホテル
帝人株式会社
株式会社テクノロジーONE
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
TECH JAPAN 株式会社
株式会社電通
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社東芝
株式会社東横イン
東レ株式会社
戸田建設株式会社
飛鳥ホールディングス株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社トピア
内外トランスライン株式会社
鳥飼総合法律事務所
株式会社中村屋
株式会社ナベル
株式会社日新
日東工器株式会社
株式会社ニトリホールディングス
株式会社ニフコ
西村あさひ法律事務所
日印ビジネス支援協会株式会社
日精エー・エス・ビー機械株式会社
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社

2026年9月16日現在 (50音順)

東洋アルミニウム株式会社
豊田通商株式会社
株式会社日本視聴覚社
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社菱法律・経済・政治研究所
公益財団法人フォーリン・プレスセンター
株式会社MIXI
株式会社ミスズ
三井物産株式会社
三菱商事株式会社
武蔵野メディカルシステム株式会社

税理士法人日本経営
日本信号株式会社
株式会社 日本経済新聞社
日本航空電子工業株式会社
日本航空株式会社
公益財団法人日本交通公社
一般財団法人 日本国際協力センター
日本製鉄株式会社
日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本放送協会
株式会社 日本マルコ
日本郵船株式会社
日本電子株式会社
ニルジエックス コンサルティング 株式会社
野村不動産株式会社
野村ホールディングス株式会社
ノリタケ株式会社
ハイカル ジャパン
株式会社博報堂
株式会社 阪急交通社
阪和興業株式会社
株式会社ピーアイ・ジャパン
BEYOND NEXT VENTURES株式会社
株式会社BS日本
株式会社東日本福祉経営サービス
株式会社日立製作所
BLS INTERNATIONAL SERVICES LIMITED
フィデル・テクノロジーズ株式会社
株式会社フジタ
富士フイルム株式会社
富士通株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士電機株式会社
BAKER TILLY ASA INDIA LLP
FourS株式会社
フォースバレー・コンシェルジュ株式会社
株式会社プレジィール
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社
株式会社ボルテックス
株式会社マイナビ
前田建設工業株式会社
松田綜合法律事務所
丸紅株式会社
株式会社みずほ銀行
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱総合研究所
三菱重工業株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社ミツバ
民間外交推進協会（FEC）
株式会社メタルワン
一般社団法人MEDICAL EXCELLENCE JAPAN
森・濱田松本法律事務所
株式会社ヤクルト本社
株式会社安井建築設計事務所
ヤマハ発動機株式会社
ヤマヤエレクトロニクス株式会社
郵船ロジスティクスグローバルマネジメント株式会社
ユービーエルジャパン合同会社
豫洲短板産業株式会社
読売新聞東京本社
株式会社ライズ・ジャパン
YKK株式会社
医療法人社団和風会



JAL 羽田/成田-デリー線、成田-ベンガルール線 好評運航中!



おかげさまでJALグループは、9年連続で
世界最高品質の5-STAR AIRLINE*に認定されました。

*2026年SKYTRAX社認定



明日の空へ、日本の翼